

2016年4月26日

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営」コラム第56回

＜仕事を楽しみながら未来を開く＞

ビジネスの変化スピードがますます高まる今日ですが、速やかに変革出来ないと成長が難しい時代になってきました。ところが変革には様々な困難や痛みを伴うことが多く、これらがリスクとなって浮上してきます。この緊張感のせいでしょうか、最近では日々の仕事を現状維持するだけでも疲労困ぱいの人や組織によく出会います。

仕事を過去の成功体験の延長上で判断・決断しても展望が開けず、イノベーションの創出に向け、明るく前向きに挑戦していこうという企業が最近多くなってきたことも感じています。イノベーションを起こすことを楽しむ時代になったようです。

一般的に、人は決められたこと、命じられたことにただ従うだけの毎日だと疲れます。自主的に自らのアイデアや工夫を加味した行動が、顧客から認めてもらえ、結果が出てくると元気も出て、仕事が楽しくなるはずです。ビジネスに責任が持て、毎日が充実してきます。

個々の人が自主・自律的に仕事を進め、組織的にもばらつかず、むしろ良い意味で統制がとれていて、ケイパビリティ（組織的な強み）を発揮しているところが、種々のイノベーションを起こしています。

〈知るより好く、好くより楽しむ〉

ただこれを知ったばかりでは、興味がない。

好むようになりさえすれば、道に向かって進む。

衷心（ちゅうしん）より道を楽しむ者に至っては、いかなる困難に遭遇するも挫折せず、敢然として道に進む。

—出典：「渋沢栄一 100の訓言」澁澤健著—